

せわやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

10月・・・「体力アップ!チャレンジかごしま」

十島村教育長 有村 孝一

9月・10月は、各島で運動会が開催されました。それぞれの島では工夫を凝らした伝統的なもの、新たなものなど様々な種目が実施されました。中でも、諏訪之瀬島と小宝島では、本校になった最初の運動会ということで、大いに盛り上がったようです。

さて、鹿児島県では、これまで平成23年度から10年間の計画で、子どもの体力向上推進事業「たくましい かごしまっ子育成推進事業」を展開しています。この中で、小中学校の児童生徒が、学級単位で挑戦するのが「体力アップ!チャレンジかごしま」です。

その小学校版についてふれてみますと、県内の小学校児童の運動の日常化を図り、体力向上を目指し、学級を単位として挑戦するものです。取組を通して、好ましい人間関係や社会性を育成し、積極的に外遊びや運動する機会を奨励するという趣旨になっています。

実施種目としては、10人でチャレンジ(10人で連続長縄跳び)、長縄エイトマン(長縄8の字連続跳び)、レッツ短縄跳び(みんなで一緒に短縄跳び)、一輪車でGO(一輪車リレー)、馬跳びピョンピョンピョン(連続馬跳び)、

2人でさっさっ(手つなぎ横跳び)の6種目です。

前期と後期の申告期間があって、十島村の学校においても、これに挑戦して



いるところです。手元に、9月9日現在の日置・鹿児島地区ランキング集計があります。それによりますと、1年生の「レッツ短縄跳び」で悪石島小が1位、2年生も「レッツ短縄跳び」で1位口之島小、2位平島小です。3年生の「レッツ短縄跳び」で悪石島小が1位で同時に県でも2位です。4年生では「2人でさっさっ」で中之島小が1位で県で7位になっています。5年生では悪石島小が3位。6年生では「一輪車でGO」

小宝島小が1位で県で5位、「レッツ短縄跳び」で悪石島が1位、口之島小が5位、「2人でさっさっ」で小宝島小が3位にそれぞれランキングされています。

学校規模が小さく少人数ながら、子どもたちはよく健闘していると思います。体力づくりについては、私たちの小さい頃は、外遊びによって自然と身に付けていたものですが、今はこのような組織だった取組を行うことにより、それを達成しようというものではありません。「継続は力なり」です。「一校一運動」「一家庭一運動」にもどんどん挑戦し、体力づくりに取り組んでほしいものです。

子どもたちに「チャレンジかごしま」がんばっていますか?と尋ねてみてください。一層、力をもらって頑張ると思います。

贈 ☆ 十島村へ本の寄贈 ☆

十島村に本の寄贈がありました。元県議会議員の山口修さんからです。とてもありがたいことです。大人用の86冊の本を7島に分けましたので、1島12冊から13冊の本を送っています。島民の方々に読んでもらうために、各学校図書室に、分かるように保管してありますので、セブアイランド図書・県図書同様、どうぞご利用ください。



輝 シリーズ この島で暮らして「島での生活」 諏訪之瀬島中学校 2年 山中 雪嘉

諏訪之瀬島に降り立ってから4年が経ちました。鹿児島港から初めてフェリーに乗船したときのことは今でも忘れられません。23時50分、フェリーが動き出しました。ワクワク、ドキドキ、不安と期待がいっぱいでしたが、たくさんの見送りの人々から後押しされ、諏訪之瀬島で楽しく頑張ろうと思いつながりながらの旅立ちでした。島に降り立ったとき、島の皆さんに厚く出迎えられ、嬉しかったです。また、すぐに学校の友だちと島探検が始まり、寂しい思いもせずに済みました。

そんな私も、中学校2年生となりました。小学校を卒業し、同じ環境の中学校へと進学できたことで、安心感と充実感あふれる学校生活を送ることができています。日常生活においては、島民の方々が優しく接してくださるおかげで、島の行事にも積極的に参加でき、楽しく過ごすことができます。伝統行事である「8月踊り」では、ずいぶん上手く踊れるようになったと思います。

中学校生活も残り半分になり、この島で過ごす時間も限られています。島での生活の一つ一つを大切に、ここで出会った友だち、島民の方々と最後まで大事に楽しく過ごしていきたいと思っています。

人権週間て何?

12月4日(日)から12月10日(土)までの1週間は「人権週間」です。こどもの人権とか女性の人権、高齢者の人権、障がい者の人権などいろいろな人権の問題が社会では起こっ



ています。平成28年度の啓発活動重点目標は「みんなで築こう 人権の世紀 ～考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心～」今一度この機会に、自分の人権意識、人権感覚を見つめ直してみませんか。

灯

南日本新聞ひろば欄に掲載(10/19) 「よりよい社会へ」 宝島小学校5年 福島嘉津穂

宝島は、人口が少ないので島民みんなが顔見知りだ。島の行事も多く、島民と会う機会も多い。しかし、一人一人と親しくできているとはまだいえない。

宝島小・中学校は児童生徒も先生もそれぞれ14人だ。他校と比べると人数は少ないが、毎日全員と話しができていくわけではない。よりよい社会をつくるためには、お互いに親しくすることが大切だと思う。まずは、あいさつを通してつながりを強くすることが必要だ。

その際、立ち止まることを意識してあいさつをしたい。立ち止まってあいさつをされると、誰にあいさつされたかが分かりやすく、いい気持ちになるからだ。

しかし、つい歩きながらあいさつをしてしまうことがある。恥ずかしかったり、面倒くさかったり、急いでいたりするからだ。これからは、相手の気持ちを考えて、あいさつするようにしたい。



よゆうをもって行動し、あいさつがしっかりとできるようにしたい。そうすれば、一人一人とのつながりが強まり、よりよい社会になっていくと思う。

十島村の小・中学校からのメッセージ 中之島小・中学校 養護教諭 古橋香織

「〇〇先生は子どもたちのために本当に一生懸命してくださった」「数年前の〇〇先生がいるところに、船を出して皆で遊びに行った時は楽しかったね～」と、島の方々は昔の先生との思い出を語ってくださいます。赴任した1～2年目は若干アウェイを感じながらも、ニコニコ話を聞くばかり。でも、島の方々はたくさんの「おもてなし」をしてくださり、一日でも早く島の暮らしに慣れるように助けてくださいました。

約3年という短い赴任期間にも関わらず、昔話に登場するのは、たくさんのおもてなしに覚え、公私ともに島に溶け込み、一生懸命島民の思いを聴き、子どもたちの未来への希望に寄り添ってきた先生方だったからだと思います。

私は中之島で6年目を迎えました。十島村ならではの(給食物資の注文や検収)の養護教諭の仕事や島での暮らしにもだいぶ慣れ、島や学校が少しずつ変わっていく様子を見てきました。しかし、その中には去年と変わらない、数年前と変わらない学校の取組、島の取組がいくつもあります。そこには、保護者や島の方々の願いがたくさん詰まっているからこそ変わらないもの、変えられないものなのかもしれない。

教育では「不易と流行」という言葉がよく使われます。流行に目を向けすぎて、不易を疎かにしないように、不易があるからこそ、流行が生きてくる。

島民として、養護教諭として変わらないものを、新しい流れの中で伝えていくことの大切さを中之島で学びました。日々子どもたちへの健康教育を実践することは当然ですが、それ以外に赴任2～3年目とは違う何かを期待されていると感じる事があります。中之島での「不易と流行」とは何かを自問自答しながら、その期待されている何かの答えを見つけていこうと思います。

「教職員仲間であるあなた」への 私からのメッセージ

養護教諭として、子どもたちに健康教育(生きることの素晴らしさやすごさ)を伝える時に、十島村は人間が生きていくための原点だと気づかされます。病気やけがをしないように生活する方法を学び、健康で生きるための知恵を教わることができます。自分自身の気づきになり、養護教諭の資質を高めてくれる場所だと思います。